

# JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)～(8)は必ず記入してください。(9)～(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	番外編	(2) 記載者氏名:	柳下 棟生	会員番号:	10482	事務局整理記入欄	青函 - 1
分水嶺区分	吉岡斜坑口～津軽海峡海底トンネル～龍飛斜坑口	(3) 山行日:	2005年	8月	21日	(4) 天候	雨

(5) 参加者氏名および会員番号				サポート要員氏名および会員番号			
柳下 棟生	10482						
計				計			
1名				名			

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	津軽海峡下の海底山脈を仮想分水嶺として、その中を通る青函トンネル作業坑を北海道から青森県に歩き抜ける。												
アプローチ:	トンネル吉岡斜坑口まで貸切バス。トンネル龍飛斜坑口からは貸切りバス。												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)～(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	吉岡トンネル斜坑口	渡島福島	140	13	-	41	26	-	10		8:46		
最低水準点標									-240	10:48			
歩行終了点	龍飛トンネル斜坑口	龍飛崎	140	20	-	41	15	-	100	13:51			
総歩行時間(休憩時間を除く):												5時間0分	

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
最低水準点標					三角点なし、水準点で本邦最低 - 240mにあり

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

青函トンネルは津軽海峡下の北海道と本州をつなぐ海底山脈をうがったもの。入坑、出坑せる両斜坑口とも地形図上 明記なく、安全保障上機密性高いと考えられる。GPS測位するも本書では丸めておおまかに示す。

(9) 水および植生に関連した特記事項


(10) その他の特記事項

青函トンネル・北海道吉岡斜坑口から入坑。列車の走る本坑と並行する作業坑を約23km歩き、青森県龍飛斜坑口 から地表に出る。JR北海道主催の「北海道新幹線着工記念青函トンネルウォーク」に参加した。

(11) 写真の添付: (有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:	